

中国語教育学会会報

第 33 号 (通巻 58 号) 2012 年 1 月 20 日発行

〒441-8522

愛知県豊橋市町畑町 1-1 愛知大学
荒川清秀研究室内

中国語教育学会

HP <http://www.jacle.org/>

Email ch_teaching@yahoo.co.jp

郵便振替口座 00110-1-191152

=====

目次

- (1) 2011年度第2回編集委員会、理事会報告
- (2) 研究会のお知らせ(2012.3.10 於北九州市立大学)
- (3) 第10回全国大会エントリー要項等(2012.6.2-3 於神田外語大学)
- (4) 事務局からのお知らせ

=====

- (1) 2011年度第2回編集委員会、理事会報告

日 時: 12月17日(土) 10:00 ~ 16:30 会場: 愛知大学東京事務所

出席者:

会長: 荒川清秀

代表理事: 佐藤富士雄、藤井達也、山崎直樹、山田眞一

理事: 岩本真理、遠藤雅裕、大川完三郎、加藤晴子、清原文代、鈴木慶夏、陳淑梅、西香織、丸尾誠、村上公一、守屋宏則、楊光俊、古川裕

幹事: 中西千香

出席者計 20 名

欠席者: 郭春貴、平井和之、三宅登之、日下恒夫、依藤醇、胡士雲、塩山正純

編集委員会報告

編集委員会出席者: 荒川清秀、佐藤富士雄、山田眞一、岩本真理、山崎直樹、中西千香(事務局)

欠席者: 郭春貴、平井和之

会誌 10 号編集経過について報告があった。10 号はシンポジウムの特集論文と採用論文で編集を行う。今回は締め切りを 1 か月早めたせいか、投稿数は 15 本で例年より少なかった。うち、条件付き採用が 8 本、不採用が 7 本であった。条件付き採用は、3 週間以内に修正ができることが条件である。

また、先にお知らせしたように、次期からは会長と編集委員長を分離することにし、新しい編集委員長として山田眞一会員を選出した。編集委員は 7 名のうち 4 名を改選するが、残留委員と新規委員については、山田新委員長が、会長をはじめとする新体制が整ってから決定することにした。

また、来年度の投稿規定、執筆要項については、さらに検討することを確認したが、投稿時の条件で、共著の場合の執筆者の会員、非会員の条件については、筆頭者が会員であれば投稿可能であることを決定した。

選挙結果、来年度会長について

今回は投票期間が短く締め切りまでに出せなかった人が大勢いた。次回は 2 年後の 11 月、12 月頃に選挙を行うが、締め切りは消印有効にし、投票用紙が手元に届いてから 3 週間くらいの猶予を設けることにした。今回、12 月 10 日到着分まで、受け取った封筒総数は 82 通(5 名連記のところを 4 名までの記入のもの 1 通、投票用紙を入れず、住所変更の連絡のメモのみ封入したもの 1 通)であった。そのうち、有効票数は 404 票。投票数の上位にある、荒川、古川会員は会長経験者であるため 3 位以下の方について会長をお願いした。理事会段階では決定できなかったが、その後佐藤富士雄氏に決定した。

今年度の研究会について (2)を参照

各地区での研究会に、どこからでも参加しやすくするため、「地区研究会」の名称をはずすことを確認した。

全国大会について 応募要項については(3)を参照

全体について開催校代表として植村会員から、また、合同開催で行うことについて、高等学校中国語教育研究会(高中研)を代表し藤井理事より報告があった。学会からの補助については、参加者人数にも関わるが、記念大会でもあるので、もし足りない場合は20万円まで追加補助をすることを決定した。

基調講演をお願いするカリフォルニア大学サンディエゴ校教授、當作靖彦先生の招聘について承認した。高校側としては、何かを学んで帰りたいという気持ちがあるので、セミナーがあるとうれしいとのことであったが、中国語教育セミナー担当グループの遠藤理事より、大会では時間が限られているので、セミナーは単独で開いたほうが妥当との意見があった。また、大会の発表時間は30分+10分(質疑応答)という案が示されたが、これは発表者の数によって変更もありうるとのことであった。

後援は高校の先生方に出やすくしてもらうため、文部科学省、一都三県の教育委員会、中華人民共和国大使館教育処をお願いすることにした。なお、大会の応募要項については(3)をご覧ください。

会員動向について

1月14日現在 名誉会員 11名(会費免除) 一般会員 492名

新入会員(9名)

張筱平(愛知大学)、太田有香(東京外国語大学(院))、朱鳳(京都ノートルダム女子大学)、方建萍(AEON株式会社)、葉亜璇(明星大学)、神野智久(湖南大学(非))、宮本大輔(福岡大学)、津田量(中国人民大学(院))、板垣友子(大東文化大学(院))

退会者(3名)

朋友書店、滝沢恭子、張珂

会費の振込状況 1月13日現在

請求総額 3,139,900円 既納入金額 1,69,5000円 納入率 約54%

未納177名 3年(15,000円)未納 18名 14,000円未納 1名

2年(10,000円)未納 51名 過年度分(5,000円)未納 2名

今年度分(5,000円)のみ未納 105名

未納者については払っていただくよう引き続き事務局から働きかけることにした。

名簿について

名簿を作成したが、名前のみの人や穴だらけの人がいる。今後名簿を作る必要があるのか、次回作る際には再度検討しなければならないことを確認した。事務局から、今回の名簿の記載のミスについて、もし見つけた場合には連絡していただきたいとの要請があった。

海外会員について

現状での会員数ではまだ海外会員を受け入れる体制が整っていないので、海外会員については現状通り、国内に連絡可能な代理人がいる場合のみ認める方式を続けることにした。

HP中国語版について 翻訳も終わり、順次UPしていく予定である。

科研費申請について 本年も荒川が代表として申請した。

中国語教育セミナー検討グループ

遠藤理事から現状報告があり、来年度中に一度は開催できるよう準備したいので予算をつけてほしいという要望が出て、これを承認した。また、「セミナー企画委員会」を設置することにした。

ハンドブックグループについて

岩本理事より現状報告があり、議論の後、他の理事から今後、紙媒体ではなく電子版としてネット上で公開し

てはどうかとの提案があり、その方向であることを決定した。ウェブの場合は更新や変更が容易であり、順次公開できる利点がある。ただし、原稿料もないので、どれだけ書いてもらえるか不安もあるという意見も出た。また、教育セミナー班と、情報を共有することを確認した。

以上、グループについては委員会として、実際に動けるよう、会則変更を次回理事会、総会で承認を得る必要があるとの確認をした。

来年度予算について

来年度全国大会予算を増やすこと、セミナー、ハンドブックグループの活動として、予算を計上することを承認した。

(2) 研究会のお知らせ(2012.3.10 於北九州市立大学)

中国語教育学会公開ワークショップ『中国語教科書調理法 教科書を「教材」にするために』

教科書はそれ自体では素材であって、教材ではない。なぜなら、教科書の編纂の目的とそれを使用する我々の授業の目的は一致しないこともあるから。そして、その素材を教材へと調理する際に、教師の腕が問われる。このワークショップを開催する目的は、教科書を調理するための知識と技術を共有することにある。

発表者は、「課題作品」と「自由作品」の2種の発表をする。課題作品は、特定の教科書の特定の箇所を題材とすることを決めておき、そこをどう調理したかをまとめたものである。自由作品は、発表者がそれぞれ自由に教科書を選んだ。

詳細は <http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~ymzknk/wshop/2012-03-10ws.html> をご覧ください。

日時:2012年3月10日(土)13:00-17:00

場所:北九州小倉AIMビル7階(北九州市立大学小倉サテライトキャンパス)

発表者

1.植村麻紀子(神田外語大学)

課題作品:「教科書を教える」から「教科書で教える」へ 全12課を5つのユニットにデザインし直す

自由作品:プロジェクト型学習活動 キャンパス紹介ビデオ/パンフを作って交換留学先に送ろう

2.鈴木慶夏(釧路公立大学)

課題作品:教科書の教材化と自己発見の教材化 “了”の文法的意味を学習者が抽出する

自由作品:アフォードンスによる文型認知ストラテジー 疑問詞呼応構文をアフォードする

3.中西千香(愛知県立大学)

課題作品:表現の広げ方~単語学習からフレーズ(VO)学習へ~

自由作品:道をたずねるタスクに必要な材料とは?

4.西香織(北九州市立大学)

課題作品:場面と機能を重視したコミュニケーションタスク 中国語で予約ができた!

自由作品:タスク遂行のための文型導入 お店選びタスクを例に

5.山崎直樹(関西大学)

課題作品:コミュニケーションゴールの違いが学習項目の重みづけを変える 助詞の“了”に重点を置かないという判断

自由作品:形式はシンプルに、コンテキストは多様に SFMC(Single Form, Multiple contexts)

プログラム(予定)

第1部: 概要紹介(13:00-14:00)

第2部: ポスターセッション(14:30-17:00)

(3) 第10回全国大会エントリー要項等(2012.6.2-3 於神田外語大学)

第10回全国大会は、高等学校中国語教育研究会との合同大会として、

2012年6月2日(土)、3日(日)に神田外語大学(千葉県千葉市)にて開催します。

以下の要領により研究発表を募集しますので、奮ってご応募ください。

1. 応募資格

・応募者は、応募時点で2011年度までの会費を納入済みの中国語教育学会会員または高等学校中国語教育研究会会員に限る。共同発表の場合は筆頭者を決めること。筆頭者はどちらかの会の会員に限る。

2. 発表内容

・発表内容は未発表のもので、広く中国語教育に関わるものであること。

下記のテーマで分科会を構成しますので、テーマに沿った研究発表を募集いたします。なお、応募者多数の場合は、大会準備委員会で選考を行いますのでご期待に沿えないこともあります。また、各分科会内で発表内容に関連性を持たせ、議論を活発にするために、大会準備委員会が特別に依頼をした会員が報告を行うこともあります。あらかじめご承知おきください。(応募の際は、どのテーマでの応募かを記号で明示してください。複数のテーマに属することを強調したい場合は、複数の記号を選んでいただいても構いません)

- A) コミュニカティブな到達目標を設定・共有し、そこから中国語の授業を設計するアプローチの実践
- B) 学習者同士の連携 / 他教科との連携 / 学校外との連携による中国語学習の実践
- C) ICTリテラシーの習得、より高度な思考(critical thinking)の訓練を行う学習要素を含む中国語教育の実践
- D) 自発的な「異文化への気づき・異文化との対比・異文化の考察」を促す活動を組み入れた中国語教育、異文化間の調整を行うことが必要な活動を組み入れた中国語教育の実践
- E) 自律的な学習者を養成する過程を学習要素を含む中国語教育の実践
- F) 中国語の音声・表記などの領域における基礎的研究
- G) 中国語の語彙・文法などの領域における基礎的研究
- H) 中国語の語用論・談話分析などの領域における基礎的研究
- I) 学習者の動機付け、学習者要因、学習方略などの理論的 / 実証的研究
- J) 中国語の習得過程、学習者の誤用の分析や中間言語の理論的 / 実証的研究
- K) 学習者の能力の評価・測定に関する理論的 / 実証的研究
- L) さまざまな教授理論・アプローチによる実践の報告
- M) 言語政策、言語教育政策に関する研究
- N) その他

<各テーマの説明と募集の趣旨>

- A) 学習効果をあげるためには目標が必要である。その目標も教師と学習者が共有できるものが望ましい。昨今、「～ができる」という能力記述文(コミュニケーションを行う能力が記述されることが多い)で設定された目標に向けて、評価方法を定め、授業を設計していくアプローチが多く試みられるようになってきている。そのような実践の報告(どのような目標を設定したか、どのような評価方法を取り入れたか、それらをどのように学習者と共有したか、そして、その目標からどのように授業を設計していったか)を募集する。
- B) 教室内あるいは教室外における学習者同士による協働的学習、他教科や他の授業の内容と連動した中国語学習、学校の外(の個人や機関)の協力を得て行う中国語学習などの実践の報告を募集する。

- C) ICT の発展により、情報の収集・発信の方法は大きく変化した。しかし、同時に、さまざまな問題 デジタルディバイド(情報機器を利用できる環境の如何がアクセスできる情報の量と質を左右すること)、安易に得られる情報の質が玉石混淆であること、個人情報保護などのセキュリティーの確保の困難さも噴出している。21 世紀は、これまで以上に、ICT をよりよく利用するためのリテラシーが必要な時代であるといえよう。また、現代人には、ICT の発展によって洪水のようにもたらされる大量の情報に対し、自分の知識と思考を頼りに、そのふるい分けを行う能力、そしてその情報に基づき、自分で何かを決定する能力も要求されている。外国語の学習においても、ICT の利用、情報のふるいわけ、選択肢の中からの決定といった問題は密接に関わりをもつ。中国語学習の中で、ICT リテラシーを身につけるような学習要素、あるいは、高度な思考 / 批判的思考(critical thinking)を行う能力を養成する学習要素を含む中国語学習の実践報告を募集する。
- D) 外国語の学習と、その言語が使用されている地域・集団の文化に対する理解は密接な関わりをもつ。また、異文化との接触・理解は、自文化の再確認という効果ももたらす。ただ、その異文化への理解も、知識として一方的に教授されるものよりも、学習者が自分で異文化の文化的産物を見だし、自文化の産物との対比をし、その異同について自分で考察を行うことによって得られた理解のほうがより有益である(これは、上述の高度な思考 / 批判的思考とも関係する)。さらに、異文化との摩擦あるいは衝突などが生じたとき、それを調整できる能力も現代人には求められている。外国語学習という過程は、この能力を養うのに非常に適した場であるといえよう。上述の自発的な「気づき・対比・考察」、異文化調整能力の訓練などの学習要素を含む中国語学習の実践報告を募集する。
- E) 「与えられて行う学習(instructed learning)」の限界が指摘されて久しい。また、自律的に学習目標を設定し、学習計画を立て、自分が何を得たかを振り返る学習方略を使いこなせる学習者は、外国語学習に成功しやすいことも指摘されて久しい。中国語の学習の中に、上述のような「自律的学習者」になるための訓練を学習要素として組み入れた実践の報告を募集する。
- F) 言語そのものに対する基礎的研究は、その言語の教育を発展させるために欠くことはできない。この観点から、現代中国語の音声・音韻、音声と表記との関係などの領域における研究を募集する。当該分野における社会言語学的な視点からの研究も含む。中国語教育への寄与を明確に示すことができる研究が望ましい。
- G) 言語そのものに対する基礎的研究は、その言語の教育を発展させるために欠くことはできない。この観点から、現代中国語の語彙の体系や変化、語構成や統語構造の分析、意味構造の分析などの領域における研究を募集する。当該分野における社会言語学的な視点からの研究も含む。中国語教育への寄与を明確に示すことができる研究が望ましい。
- H) コミュニケーション能力の育成を重視した言語教育には、言語が実際にどのように用いられるかという知見が欠かせない。この観点から、現代中国語の語用論(例: スタイルの切り替え、ポライトネス・ストラテジー、言語における性差のなどの研究)・談話や会話の構造の分析などの領域における研究を募集する。中国語教育への寄与を明確に示すことができる研究が望ましい。
- I) 学習者のどのような動機が学習の効果にどのような影響を与えるか、学習者の動機付けはどのようにして高められるのか、学習者のもつさまざまな要因が学習の効果にどのような影響を与えるのか、学習者はどのような学習方略を用いるのか、どのような学習方略の使用が効果的なのか、などに関する理論的 / 実証的研究を募集する。

- J) 中国語の音声・語彙・文法などの習得過程に関する調査や分析、学習者の誤用の構造に関する調査や分析、学習者の産出する中間言語の構造に関する理論的・実証的研究を募集する。
- K) 中国語学習者のどのような能力をどう評価するか、特定の技能の能力を測定するにはどのような方法が望ましいかなど、評価・測定に関する理論的 / 実証的研究を募集する。
- L) これまでに、言語教育の分野では、さまざまな教授理論・アプローチが提唱されてきた。これらを中国語教育に応用した実践報告、また、そこから得られた成果や明らかになった問題点などに関する報告を募集する。
- M) 中国語が使用されている地域の言語政策および言語教育政策が、中国語教育にどのように影響するか、また、日本の外国語教育に関する政策が、中国語教育にどのように影響するかなどに関する研究を募集する。

この募集要項のテーマの数は、分科会の数・分類に対応するものではありません。応募数によって、まとめて1つの分科会を設定することもあります。

3. 応募要領

・所定の様式(「発表者原簿」及び「発表要旨」)を

<http://www.jacle.org/storage/12entrysheet.doc> からダウンロードし、記入して提出。

・「発表要旨」(2 ページ目)は、1 行目にタイトルとテーマ分類記号、2 行目に氏名、所属を書き、3 行目「発表要旨:」の次の行から横書き 1000 字以内で日本語または中国語による要旨を書く。

4. 書類提出先

(1)メールの場合: 件名を「第 10 回全国大会発表応募」として、以下の準備会メールアドレス宛に添付ファイルで送信してください。 godo2012kanda@gmail.com

アドレスの間違いないように、くれぐれもご注意ください。

学会ホームページ(<http://www.jacle.org/>)からもリンクされています。

(2)郵送の場合: 以下の宛先に郵送してください。

〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉1 - 4 - 1

神田外語大学アジア言語学科中国語専攻 植村麻紀子研究室内

「中国語教育学会 10 周年・高等学校中国語教育研究会 30 周年記念合同大会(中国語教育学会第 10 回全国大会)」準備会宛

5. 締切 2012 年 3 月 9 日(金)必着。

採否の結果は 2012 年 3 月中に応募者全員に通知し、ホームページにも掲載します。

(4) 事務局からのお知らせ

年会費振込のお願い

今年度は会費納入状況が非常に悪く、2012 年 1 月 13 日現在でも納入額は請求総額の 54%にしか達していません。このままでは今後の会の運営に支障を来す恐れがあります。現時点で未納の会員には「会費納入のお願い(金額の案内)」通知を同封しますので、速やかに納入下さい。通知内容に疑問がある場合には、ご面倒でも ch_teaching@yahoo.co.jp に連絡願います。また、既に納入頂いて行き違いのある場合は御放念下さい。

なお、2年以上滞納のある会員には『中国語教育』第 10 号を送付しない予定であります。会費の振込が確認できしだい送る予定ですので、早急に会費を振込んで下さいますようお願いいたします。